

巻頭言

第一期の中期目標期間のスタートに当たって

独立行政法人 森林総合研究所 理事 田中 潔

森林総合研究所は2005年11月1日に創立100周年を迎える。約一世紀に渡る歴史の中には、①1978年3月の東京都目黒区から茨城県茎崎町への移転、②1988年10月の「林業試験場」から「森林総合研究所」への名称変更、③2001年4月の独立行政法人化と、三つの大きな出来事があった。



「林業試験場」から「森林総合研究所」へと変わる時には、様々な名称が検討された。「森林林業技術研究所」「林業技術総合研究所」「森林資源総合研究所」などが有力候補であった。名前の中に、「林業」「技術」「資源」といった言葉が必要であるとの意見が所内外から出た。全部取り込むと「森林資源林業技術総合研究所」となる。いかにも長い。異論百出の中、「森林総合研究所」の「総合」には、これらの言葉がすべて含まれるという考え方が示され、「森林総合研究所」で決着がついた。

独立行政法人化に当たっても、研究所の名称についての検討が行われた。12年間なじんできた「森林総合研究所」を、他の名前に変えようという意見はほとんどなく、早い時期に「独立行政法人森林総合研究所」という名称が決定した。

今、「〇〇総合研究所」という名前は人気が高い。「総合研究所」をインターネット上で検索した結果、289件の情報を得た。国、都道府県、民間、個人などのレベルで様々な「総合研究所」が存在する。今回の独立行政法人化に当たって、名称に「総合」と新しく入れたところが3か所ある。いわく、「酒類総合研究所」「産業技術総合研究所」「水産総合研究センター」。すでに「総合研究所」を使っている6機関を合わせると、独立行政法人化された31の試験研究機関のうち、9研究所に「総合」の名前が付いたことになる。これらの「総合研究所」のホームページには、それぞれの分野で、体系的、多角的、総合的に研究を行うといった文言が並んでいる。森林総合研究所も、森林、林業、木材産業の分野における試験研究を総合的のみならず重点的に実施する必要があるであろう。

独立行政法人森林総合研究所の第一期の中期目標期間は2001から2005年度と定められた。最終年である2005年は創立100周年とも重なることから、森林総合研究所にとって、きわめて重要な年になると思われる。100周年までのこの5年間で、森林総合研究所にとって、輝かしい次の100年を目指した5年間であり、第二期、さらに第三期の中期目標期間の発展を予感させる5年間となるように、職員とともに努力を重ねていきたい。